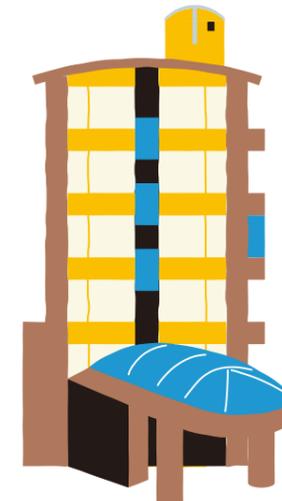


ゴーオン!
50 on!
大阪市平野区社会福祉協議会 50周年誌



社会福祉法人
大阪市平野区社会福祉協議会

〒547-0043 大阪市平野区平野東2-1-30
平野区在宅サービスセンター(にこにこセンター)

電話 06-6795-2525 FAX 06-6795-2929



2025年1月発行

50th 大阪市平野区社会福祉協議会



50 on!

ゴーオン!

続いていく
あなたとともに

INDEX

- | | |
|----------------|-------------------|
| 01 … 目次 | 15 … 50年のあゆみ |
| 03 … 会長あいさつ | 19 … フォトギャラリー |
| 04 … 祝辞 | 21 … 平野区23地域の活動紹介 |
| 05 … 社会福祉協議会とは | 35 … 役員紹介 |
| 06 … 事業・活動紹介 | 37 … 編集後記 |
| 13 … 数字で見る平野区 | 38 … 連絡先・地図 |

平野区社会福祉協議会は、設立50周年の節目を迎えました。

この50年、地域みなさまの温かいご支援とご協力のおかげで、平野区の地域福祉を推進することができました。

これまで平野区社会福祉協議会に関わってくださった多くの方々を次の50年につなぎ、広げていけるようにこれからも尽力してまいります。

あなたとともに「続いていく」平野区社会福祉協議会の姿を、ぜひ見守っていただけますと幸いです。

Message

平野区社会福祉協議会
会長あいさつ



50年のつながりを未来へ これからも地域のみなさまとともに

平野区社会福祉協議会は、昭和49年7月に設立し、50周年を迎えました。地域のみなさま、地域の関係団体・施設のみなさま、歴代会長はじめ役員のみなさまのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

半世紀を経て、社会は変化し、福祉のニーズも多様化してきました。そのなかで、平野区社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会をはじめ地域の福祉活動の支援、ボランティア・市民活動センターの運営、地域包括支援センター、見守り相談室、生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付、あんしんさぼーと事業、介護予防教室事業、老人福祉センターの運営などに地域のみなさま、各機関・団体・施設と連携して取り組んでいます。

特に各地域の福祉活動をすすめるにあたっては、ボランティアのみなさま、関係者のみなさまとともに歩んでこられたことに心より感謝申し上げます。

社会福祉協議会は、人と人とがつながりを持ちながら、いきいきと暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域づくり」をめざして活動しています。実現には、地域コミュニティでのつながりが大切です。日頃から近隣の方々と様子を気にかけて、支え合う関係が、地域の活動を豊かにするとともに非常時には地域のみなさまを守る礎となります。令和6年に能登半島地震が発生し、近年、台風や大雨などの被害も数多く発生しています。社会福祉協議会としても地域での「災害への備え」の取り組みが地域コミュニティを強化していく契機となると改めて感じております。地域でのつながりづくり、支え合いの輪を広げていけるよう引き続き尽力してまいります。

次の50年に向けて、みなさまとともに地域福祉の推進に努力を重ねてまいりたいと思います。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平野区社会福祉協議会 会長
林 幸男

祝辞

Message of Congratulations



大阪市 平野区長
武市 佳代

社会福祉法人大阪市平野区社会福祉協議会が設立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協議会におかれましては、これまで、住民主体の理念のもと、地域のみなさまの絆を深め、ともに支え合う社会を築くため、幅広く多くの活動をおこなわれ、本区・本市の社会福祉の発展に寄与されています。心から感謝申し上げます。

設立から、50年の間に、社会経済情勢は大きく変化し、福祉に関連するさまざまな制度が施行されているその一方で、公的な支援だけでは解決できない課題も近年顕在化しています。

そうした状況下で、貴協議会におかれましては、福祉課題や住民のニーズを的確に把握され、専門支援機関・関係団体などと連携し、高度な専門性も存分に発

揮され、課題解決に向けて取り組んでおられます。

そうした活動の積み重ねが、地域福祉の推進にも大きな役割を果たしておられ、住民からの大きな信頼につながっています。

貴協議会は、誰もが安心して暮らせる地域づくりなど、地域福祉の推進における平野区役所のパートナーとして非常に大きな存在です。住民からの期待のみならず、平野区役所も大きな期待を寄せており、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、これまでの輝かしい歴史と伝統が紹介されている記念誌の発刊を心よりお祝い申し上げますとともに、貴協議会のさらなる発展、また、この記念誌にふれあうすべての方々の一層のご活躍を祈念しまして、お祝いのことばとさせていただきます。



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 会長
永岡 正己

社会福祉法人大阪市平野区社会福祉協議会が設立50周年を迎えられたことをこころからお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、昭和49年に平野区発足とともに設立されて以来、区内の地域福祉の拠点として中核的な役割を担うとともに、地域共生社会の実現に向けて、林会長をはじめ歴代の役員、地域住民、関係機関・団体が一体となり、歴史ある平野の地で多彩な地域福祉活動に積極的に取り組んでこられたことに深く敬意を表する次第でございます。

近年、社会や生活の大きな構造的変化によって地域のつながりも希薄になり、社会的孤立や生きづらさを

抱える人が増えています。内外の社会情勢や物価高騰の影響も重なり、生活困難に陥る人も増加し、地域における生活問題はさまざまなかたちで深刻化しています。また、地域住民や関係機関との協働による災害時に備えた体制づくりを推進していくことも求められています。そのような背景にあつて、地域のニーズ把握から幅広い協働、新たな活動の創造に向かって、貴会の役割は今後ますます重要なものとなっております。

これからも地域住民の声を大切にしながら、地域に根差した事業を展開されますとともに、設立50周年を契機に、貴会がより一層の発展を遂げられますことをお祈りいたしまして、お祝いのことばといたします。

社会福祉協議会とは

社会福祉協議会(「社協」)は、人と人がつながりを持ちながら、いきいきと暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域づくり」を目的に活動をおこなっています。

地域の福祉課題を地域全体の問題としてとらえ、その解決に向け、ともに考え、話し合い、協力して解決に向け取り組み、住民主体の地域づくりをすすめます。

活動には、地域住民、保健・医療・福祉などの関係機関や専門家、当事者組織、企業など地域のさまざまな人たちが関わっています。活動に賛同する方からの会費や寄付、共同募金の配分金や行政からの委託金などで運営する、社会福祉法に基づく公共性の高い民間の非営利団体です。

▼ 社会福祉協議会のシンボルマーク



このマークは、全国共通の社会福祉協議会のシンボルマークです。社会福祉および社会福祉協議会の「社」を図案化し、「手をとりあって、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

▼ 社会福祉協議会のネットワーク

社会福祉協議会は全国すべての市区町村、都道府県・指定都市、全国に段階的に設置され、ネットワークを生かして活動しています。社会福祉協議会の活動は、多くの人々の手によってささえられています。



社会福祉協議会活動の5つの原則

社会福祉協議会は、次の活動原則に基づいて、それぞれの特性を生かした活動を展開しています。

- 1 住民ニーズ基本の原則** 調査などにより地域住民の要望や福祉課題についての把握に努め、そのニーズに基づく活動をすすめます。
- 2 住民活動主体の原則** 住民の地域福祉への関心を高め、そこから生まれた自発的な取り組みを基礎とした活動をすすめます。
- 3 民間性の原則** 民間組織らしく、開拓性・即応性・柔軟性を生かした活動をすすめます。
- 4 公私協働の原則** 社会福祉をはじめ、保健・医療、教育、労働などの関係機関・団体と連携をはかり、行政と住民組織の協働により活動をすすめます。
- 5 専門性の原則** 住民の福祉活動の組織化、ニーズ把握調査、地域福祉活動の計画づくりなど、福祉の専門性を生かした活動をすすめます。

事業・活動紹介



平野区社会福祉協議会の事業・活動を紹介します。

活動の担い手を広げる活動や、交流の場をつくる活動、福祉に関する情報を届ける活動など、多岐にわたります。

- 地域福祉活動の推進
- 生活支援体制整備事業
- ボランティア・市民活動センターの運営
- 介護予防教室事業(なにわ元気塾)「にこにこ教室」
- 福祉教育の推進
- 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業
- おもちゃ図書館「にこっと」
- 地域包括支援センター事業
- 当事者組織活動の支援
- 生活困窮者自立相談支援事業
- 社会福祉施設連絡会
- 生活福祉資金貸付事業
- こどもの居場所ネットワーク
- あんしんさぽーと事業(日常生活自立支援事業)
- 地域福祉活動コーディネーター事業
- 老人福祉センター事業



地域福祉活動の推進

私たちが暮らす地域には、さまざまな福祉課題があります。その解決に向けて取り組むのが、地域福祉活動です。この取り組みはさまざまな課題を地域全体の問題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決し、地域住民のみなさんが中心となり、福祉・介護の専門職や関係機関団体が連携し、協働して取り組むものです。

地域の各種団体に構成される住民組織である地区社会福祉協議会が住民主体でおこなっている居場所づくり(「ふれあい喫茶」「子育てサロン」など)活動や見守り(「高齢者食事サービス」など)活動などを支援します。より効果的な活動ができるよう「地域で話し合う場」を設けることをすすめています。

また、地域福祉活動の支援を通じて、地域の福祉課題・ニーズを発見し、課題解決に向けた新たなサービス(取り組み)の開発など福祉活動の推進に努めます。

区社協がおこなっている各種事業や地域福祉活動などを広く区民や関係団体に広報啓発するため、区社協だよりを年3回発行しているほか、ホームページやSNSなども活用し、情報発信に努めています。

その他、地域福祉に関する普及啓発や地域福祉活動者(担い手)に対する研修の機会として、交流会・情報交換会などを開催しています。



ボランティア・市民活動センターの運営

ボランティア活動や市民活動に関する窓口です。「ボランティア活動をしたい」「ボランティアにお願いしたい」という思いをおつなぎし、支え合い助け合いの輪を広げ、住みよいまちづくりと一緒に考えて活動しています。ボランティアのマッチングやボランティア活動に関する情報の提供、ボランティア養成講座やボランティア交流会などのイベントを開催するなど、ボランティア・市民活動を総合的にサポートしています。



福祉教育の推進

普段の生活や学習の中で「ふくし」を学ぶことを福祉教育といいます。「ふくし」とは「自分のしあわせ」と「みんなのしあわせ」とも考え、「ふだんのくらしのしあわせ」を実現させることをめざすものです。

福祉教育は、さまざまな学習・体験、交流や活動などを通して相手のことをよく知り、自分のことも知るという「ともに生きる力」を育む取り組みです。

社会福祉協議会は、福祉教育を大切に、子どもから大人の方まで幅広い世代を対象に実施しています。



おもちゃ図書館「にこっと」

障がいがあったり、発達に遅れがある子どもたちに適切なおもちゃと遊びの場を提供し、「遊び」を通して発達を援助するとともに、多くの人とふれ合うことにより、地域での豊かな社会生活を支援しています。障がいのある子どももともに遊び交流し、育ち合う場になっています。

1年を通じて、おもちゃ図書館に関わる保護者・ボランティア同士の交流、情報交換、勉強会や講演会・交流会を通じた学び合いの場、広報啓発、おもちゃの貸し出しなどをおこなっています。また、イベントを企画し、地域の子どもたちやボランティアが交流する機会を提供しています。





当事者組織活動の支援

「不登校・ひきこもり親の会」「発達障がいを話し合う会」「談話(だんご)の会(介護家族の集い)」など当事者を中心としたつながりづくりを支援しています。同じような経験や境遇をもつ人たちが集まり、悩みを分かち合い、解決のために学び、支え合えるような場づくりを支援しています。

社会福祉施設連絡会

区内の社会福祉施設(高齢福祉・障がい福祉・児童福祉・保育など)が分野をこえ、地域の福祉課題に連携・協働して取り組むことで地域福祉の向上を目的とした社会福祉施設連絡会の事務局を担っています。施設連絡会は、総会や役員会、研修会などを開催しています。

生活支援体制整備事業

高齢者のみなさんが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、介護予防(健康づくり・居場所づくり)や生活支援(困りごとへの助け合い)の充実をめざし、地域の体制づくりを多様な主体(地域団体や関係機関など)と連携し、取り組みをすすめています。

ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯、認知症高齢者が増加するなか、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で元気に安心して暮らし続けていくためには、医療・介護の専門的なサービスだけでなく、地域とのつながりや生きがいをもって過ごすことが大切です。そのため、生活支援コーディネーター(平野区の愛称:ささえ愛支援員)が、地域の状況に応じ、高齢者が参加できる活動や利用できるサービスなどの把握・整理、情報の発信、高齢者を中心としたつどいの場や助け合い活動の立ち上げ・継続などへの支援をおこなっています。また地域の方々と多様な主体と一緒に地域の強みや課題などを共有・再発見しながら、それぞれの思いをつなぎ「あったらいいな」をカタチにするための話し合いの場(協議体)の運営などをおこなっています。



こどもの居場所ネットワーク

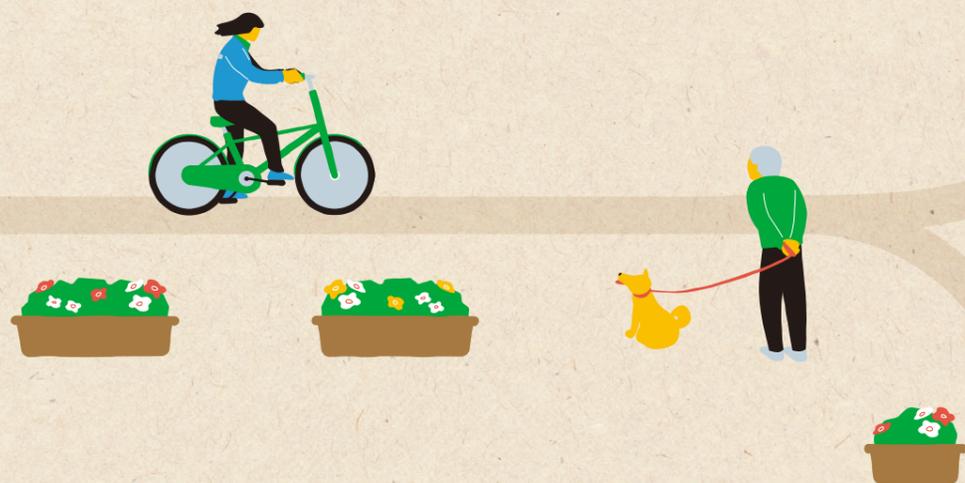
区内でこどもの居場所に関わる団体などの情報交換、連携、協力を通じて、ネットワークづくりをすすめることを目的として構成された「こどもの居場所ネットワーク」の事務局を担っています。こどもの居場所ネットワークは、こどもの居場所についての情報共有・意見交換、広報・啓発、学習会や講座などの開催、物資や助成金の情報提供などに取り組みます。

地域福祉活動 コーディネーター事業

区内23地域の会館や集会所を拠点に、各地域に地域福祉活動コーディネーターが配置されています。困りごとの相談対応や支援の必要な人への見守り体制を築くために、地域のアンテナ役、パイプ役(つなぎ役)として、地域の団体や専門職、ボランティアなどと連携して、地域福祉活動の推進をはかっています。

介護予防教室事業(なにわ元気塾) 「にこにこ教室」

地域にお住まいの65歳以上の方を対象に、すべての高齢者が年齢を重ねても自分らしくできる限り自立した生活が送れるよう、月に1回体操、栄養、お口の健康、認知症予防のお話など、日常生活に役立つ情報を得ることができる教室を開催しています。地域の人々と交流の機会をもつことで、生活圏域を広げ、認知機能や生活全般の活性化をはかり、外出の機会が増えるなど、高齢者が要支援、要介護状態になることをできる限り予防し、こころとからだの健康を高めることができるよう支援しています。



地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業

見守り相談室では、住み慣れた地域で誰もが自分らしく暮らしていけるよう、一人ひとりの悩みや課題に寄り添い、解決に向けてのサポートをおこないます。また、地域のネットワークを強化し、安心して暮らせるまちづくりをすすめるために、次の3つの取り組みを一体的にすすめています。

機能 1

地域の見守り活動への支援

災害時の支え合い(避難支援など)を視野に入れた、要援護者名簿の整備をおこない、名簿を活用した地域での見守り活動の推進、地域の見守り体制の構築とニーズ把握ができるしくみづくりを地域で活動されている方々とともに広げています。

機能 2

孤立世帯などへの専門的対応

地域や社会とのつながりから孤立している、必要な支援を受けていない、あるいは制度の狭間や複合的な課題を抱えている世帯などに対し、福祉専門職のワーカー(CSW)が外向き、関係機関と連携をとりながら地域の見守り活動や適切な福祉サービスなどにつなげる支援をおこなっています。

機能 3

認知症高齢者などの行方不明時の早期発見

事前登録された認知症高齢者などが行方不明となったときに、登録された特徴などの情報を、区と協定を結んだ協力者(民生委員・児童委員、介護保険事業者など)にメールで配信し、行方不明者の早期発見に努めています。

生活困窮者自立相談支援事業

経済的な問題のほか、就労や不登校・ひきこもりなど社会参加への不安を抱える生活困窮者に対し、自立をめざした相談・支援をおこなう窓口として、「くらしサポートセンター平野」を区役所1階19番窓口を設置しています。相談者の抱えている多様で複合的な課題に対して相談に応じ、その課題を踏まえた支援計画(プラン)を作成し、プランに沿って自立に向けた支援をおこなっています。

生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯などに対して、大阪府社会福祉協議会がそれぞれの世帯の状況と必要に応じた生活福祉資金の貸付をおこなっています。貸付には「福祉資金」「総合支援資金」「教育支援資金」などがあり、平野区社会福祉協議会では、貸付に関する相談・手続き、必要な援助指導などをおこなっています。

あんしんさぽーと事業

(日常生活自立支援事業)

権利擁護を目的として、認知症や知的障がい・精神障がいなどにより判断能力が不十分な方が地域で自立した生活が送れるように支援しています。ご本人との契約に基づいて福祉サービスなどの利用援助や日常的な金銭管理サービス、書類などの預かりサービスといった生活支援をおこないます。

地域包括支援センター事業

高齢者の身近な総合相談窓口として、地域で暮らす高齢者のみなさんが、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らしていけるよう、生活の困りごとや、介護保険・福祉サービス・認知症などに関する相談に応じています。主任ケアマネジャー、保健師(看護師)、社会福祉士の3職種がそれぞれの専門性を活かし、チームとして連携しながら支援しています。

主な4つの業務内容

① 総合相談支援事業

高齢者やその家族からの介護・福祉・保健などに関する相談を総合的に受け、必要なサービスにつなぎます。

② 権利擁護事業

高齢者虐待の早期発見・防止のための地域支援体制づくりや成年後見制度の活用促進、消費者被害防止のための情報提供などをおこないます。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

ケアマネジャーが孤立しないよう、連絡会や研修会を開催し、多機関と連携ができるよう支援します。

④ 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2の方が適切なサービスを利用して介護予防に向けた取り組み、自立した生活ができるよう支援します。

老人福祉センター事業

(平野区老人福祉センター<愛称:ひらりん>指定管理)

老人福祉センターは、地域における高齢者の生きがいづくりや社会参加を支援するための施設であり、大阪市内にお住まいの60歳以上の方なら、どなたでもご利用いただくことができます。地域の高齢者のみなさんが健康で明るい生活を営むために必要な生活相談をはじめ、各種教養講座の開催やレクリエーション事業の実施、老人クラブなどの自主活動グループへの援助などをおこないながら、高齢者のみなさんの社会参加を促進し、生きがいづくり・健康づくりを推進しています。



数字で見る 平野区

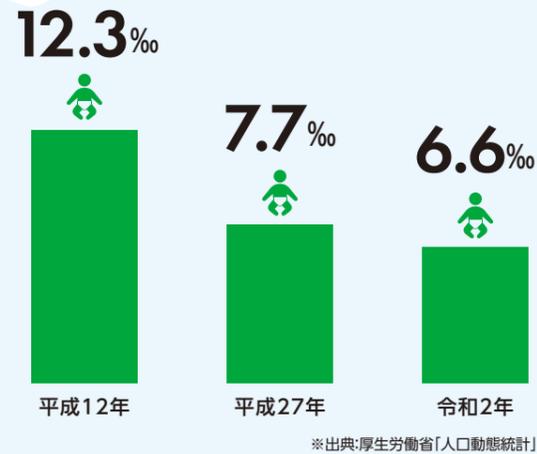
Hirano Ward's Data

平野区の姿をデータでご紹介いたします。
時の流れに伴い、変化する地域の状況にあわせて、
さまざまな事業を実施しています。

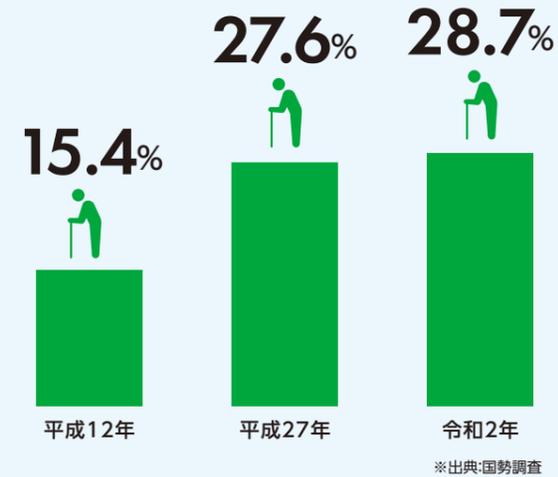
▶人口



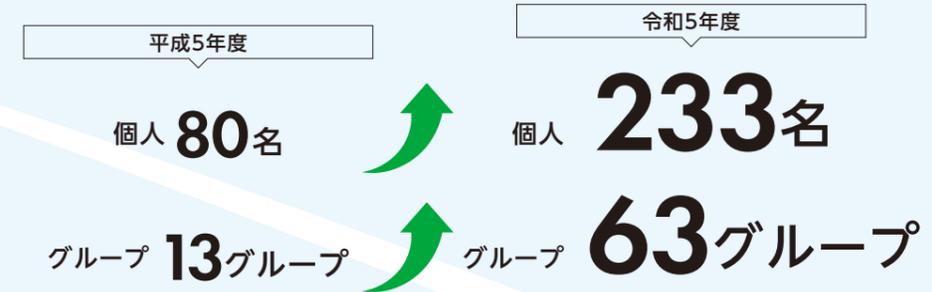
▶出生率



▶高齢化率



▶登録ボランティア数



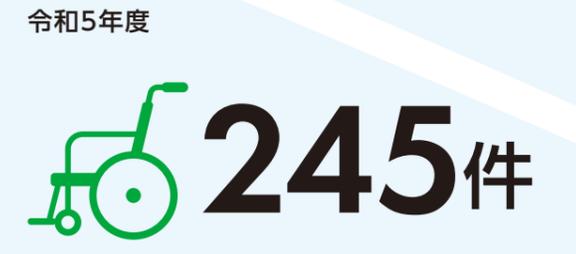
平成5年3月に平野区ボランティア・ビューロー（現・平野区ボランティア・市民活動センター）を開設。ボランティア活動をする方々と依頼する方々をつないできました。

▶区社協だより 発刊数



平野区社会福祉協議会の事業や各地域の活動などの情報を広く発信。時代にに合わせてSNSを活用した情報発信にも取り組んでいます。

▶車いす貸出件数



平野区在住で、車いすを必要とする方々への貸出サービスを実施しています。

▶歳入金額



平野区社会福祉協議会がおこなう事業は、賛助会員の方々の会費や、善意銀行への寄付金、赤い羽根共同募金など、多くの方々の協力で支えられています。

平野区社会福祉協議会 50年のあゆみ

Hirano Ward Council of Social Welfare 50th History

平野区社会福祉協議会設立から50年。
さまざまな取り組みを積み重ね、あゆんできました。

…地区社協のあゆみ …平野区社協のあゆみ

1954 昭和29年
平野・平野西・喜連地区社協 発足

1955 昭和30年
長吉東部・瓜破・加美地区社協 発足

1956 昭和31年
加美南部地区社協 発足

1961 昭和36年
平野南地区社協 発足

1964 昭和39年
喜連西地区社協 発足

1967 昭和42年
長吉西部地区社協
発足(～2021年度)

1985 昭和60年
瓜破北地区社協 発足

1989 平成元年
9月 平野西社協でふれあい型
食事サービス開始
(以後、各地域で実施)

1992 平成4年
新平野西地区社協
発足

1994 平成6年
長吉六反地区社協
発足

1993 平成5年
3月 平野区ボランティア・ビューロー開設
12月 社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会設立(法人認可)

1994 平成6年
3月 ボランティア・ビューロー登録
ボランティア懇談会開催
5月 初級手話講習会開催
6月 ボランティア・スクール開催
7月 平野区社協だより創刊
9月 高齢者福祉月間事業実施
布団丸洗い・乾燥サービス事業実施
(令和5年度で終了)
10月 平野区福祉機器展開催
11月 ハンディをもつ人と登録ボランティアとの交流会

1995 平成7年
2月 手話落語講演会開催(林家とんでん平氏)

1996 平成8年
3月 福祉講演会開催(橋凡子氏)
11月 地区社協役員研修会開催

1997 平成9年
3月 子育て講演会開催(堀ちえみ氏)



1971 昭和46年
喜連東地区社協 発足

1972 昭和47年
加美北地区社協 発足

1974 昭和49年
瓜破西地区社協 発足

1975 昭和50年
6月 善意銀行発足

1975 昭和50年
瓜破東地区社協 発足

1974 昭和49年
7月
平野区社会福祉協議会
設立

1978 昭和53年
喜連北地区社協 発足

1978 昭和53年
1月 第1回平野区ボランティア
スクール開講

1998 平成10年
3月 講演会開催(浜村淳氏)
6月 区在宅サービスセンター(にこにこセンター)開所
在宅介護支援センター事業、デイサービス事業、
生活支援型食事サービス事業などを開始
9月 送迎サービス開始(令和元年度まで)
10月 おもちゃ図書館「にここと」オープン
11月 平野区社会福祉施設連絡会設立



子どもたちとともに学ぶ～福祉教育～



にこことオープンのお知らせ
～社協だより～





大盛況!「全員集合!ボラセンまつり」

2017 平成29年

- 3月 全員集合!ボラセンまつり開催
(ボランティア・市民活動センター開設1周年)
- 8月 平野区ふれあい・ささえ愛アンケート調査実施

2016 平成28年

- 6月 生活支援体制整備事業開始

2015 平成27年

- 4月 平野区見守り相談室開設
緊急食糧等提供事業開始
- 11月 平野区ボランティア・市民活動センターに名称変更

2014 平成26年

- 4月 地域福祉活動コーディネーター配置
- 10月 暮らしサポートセンター平野開設
- 12月 不登校・ひきこもり親の会誕生
発達障がいについて話し合う会誕生

2006 平成18年

- 4月 介護予防教室事業(なにわ元気塾「にこにこ教室」)開始
平野区子ども・子育てプラザ事業開始(平成28年度まで)
地域包括支援センター事業開始(平成21年4月から3か所に)
- 7月 平野区地域福祉アクションプラン「和っしょい!ひらの」策定

2001 平成13年

- 10月 地区社協活動研究会

2000 平成12年

- 4月 介護保険法施行
介護保険事業者として事業実施
車いす貸し出し事業開始
小地域福祉ネットワーク事業開始

2000 平成12年

- 長吉六反東・長原東地区社協 発足

1999 平成11年

- 2月 長吉西部社協でふれあい喫茶開始(以後、各地域で実施)



ささえあい通信創刊



2019 令和元年

- 11月 地域福祉活動報告会
「にこにこ交流ライブinひらの」

2021 令和3年

- 3月 フードパントリー実施

2023 令和5年

- 2月 異業種交流会開催

2018 平成30年

- 3月 マスコットキャラクター(にこりん)決定
- 11月 平野区社会福祉協議会法人化25周年記念
第1回地域福祉講演会(堀田力氏)
第2回地域福祉講演会(蛭沢光氏)



区社協マスコットキャラクター
にこりんです

2012 平成24年

- 10月 平野区まちづくりセンター開設
(平成28年度まで)

2007 平成19年

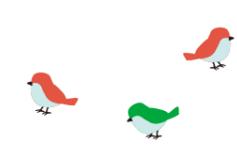
- 10月 セカンドライフ創出事業

2005 平成17年

- 10月 平野区地域福祉アクションプラン研究会
- 12月 平野区介護家族の会「談語の会」スタート

2002 平成14年

- 長吉出戸地区社協 発足



地区社協活動ハンドブックなどの作成



平野区社会福祉協議会 50年のあゆみ

Hirano Ward Council of Social Welfare 50th History

Photo Gallery

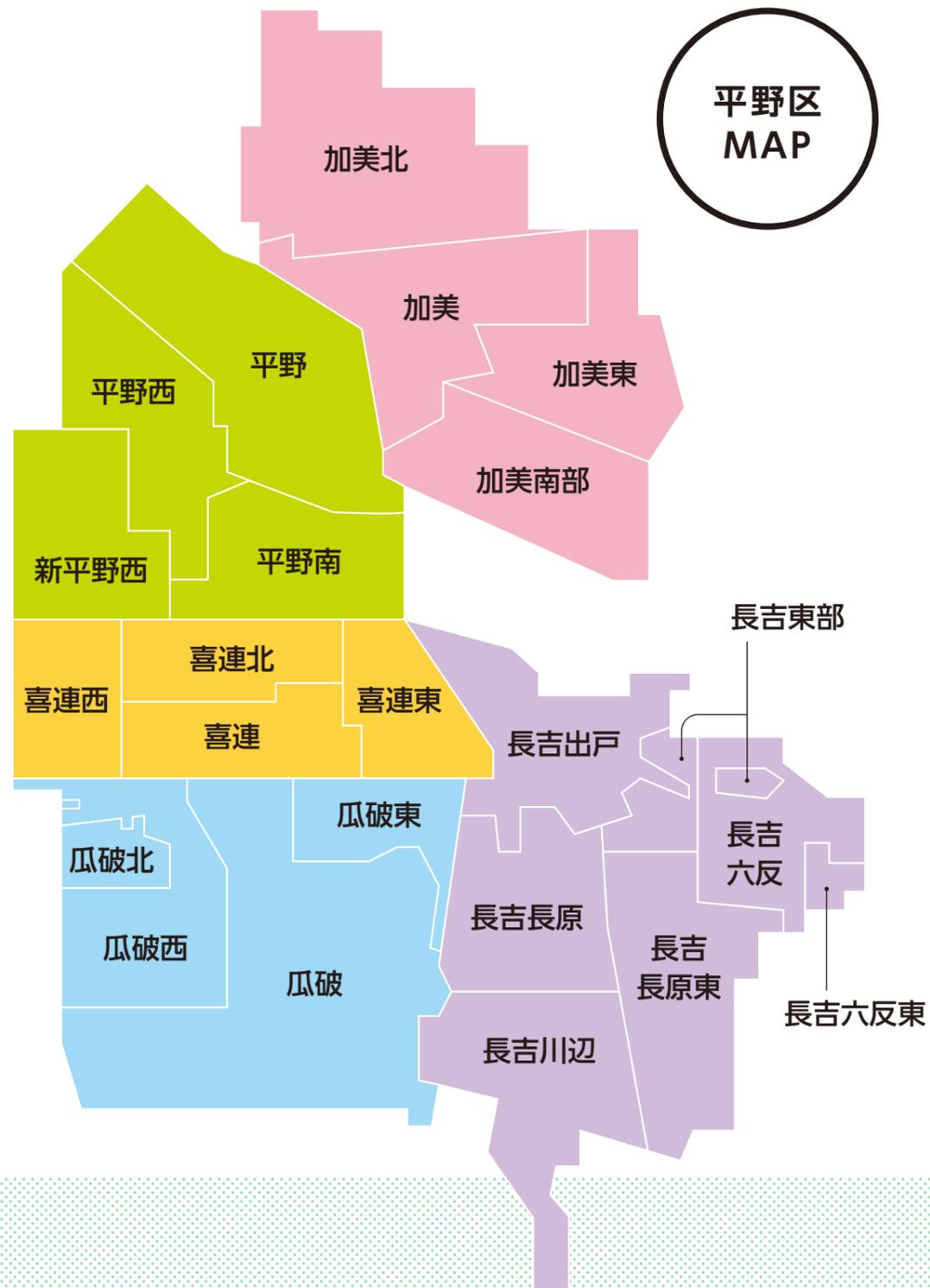
フォトギャラリー



Go Action

平野区23地域の活動紹介

みなさんの身近な地域で取り組まれているさまざまな取り組みや活動を紹介します。
活動に関わるみなさんの想いも一緒に紹介しています!



活動が一目で分かる5つのテーマ



居場所

集う人がそこにいて心地良いと思える場を生み出すことでお互いに気かけ合う関係づくりも生まれています。

平野西・平野南・喜連・喜連西・長吉六反東



見守り

困りごとを抱えた方が地域でつながりをもって暮らせるよう、日頃から気かけたり、非常時の安否確認について考えたりしている方々があります。

平野・新平野西・長吉東部・長吉川辺・瓜破西



人材・人財

地域のために自分ができることを考え行動する方々が、地域を盛りあげ、豊かにしています。

喜連東・喜連北・長吉長原東・長吉六反・長吉長原・瓜破北・加美・加美北



防災

災害への備えは、個人・各家庭ですすめるだけではなく、地域全体で取り組むことで、大きな効果を発揮します。

瓜破東・加美東



交流

お祭りやスポーツなど、何かひとつのことに取り組むために集まる場があれば、その活動を通して人びとがつながり、交流できるようになります。

長吉出戸・瓜破・加美南部



平野地域

まち中で困っている人がいた時に住民同士で声をかけて助け合えるよう、講習会や訓練を実施。ワークショップ形式で学び、実践につなげています。

活動 声かけ活動

認知症の方や障がいのある方への理解を深める講習会やロールプレイングを実施し、困っている方に対してどのように声をかけたらいいかを学んでいます。知識を得て経験を積むことで、いざというときに行動しやすくなることをめざしています。



平野地域の活動者のコメント

空振りでも、一歩踏み出すことが大切
長年継続していることで、ネットワークの広がりを感じています。地域の方が集まり、一緒に学び合うことで新しい活動が生まれることも。声かけは勇気のいる行動ですが、たとえ空振りでも、困っていそうな方を見かけたときに一歩踏み出せるよう、一緒に学び合えると嬉しいです。



新平野西地域

新平野西地域は防災活動に力を入れており、高齢単身世帯に見守りも兼ねた火災報知器の設置・状況確認のための訪問をおこなっています。

活動 火災報知器の設置見守り活動

もともと消防署がおこなっていた訪問活動を、地域が引き継ぐ形で始まりました。一度火災報知器を設置すると次の電池交換は10年後ですが、つながりを大切にするため、その後も定期的に連絡をして、見守りを続けています。訪問してほしいという依頼もあり、見守り活動が広がっています。



新平野西地域の人々

防災防犯の意識向上をめざす

火災報知器の設置だけでなく、防災グッズの配布や小中学校での防災訓練、昼夜問わず年中開かれている交番へのAED設置など、自分たちが率先して主体的に動くことで、住民の方にも普段から防災防犯について考え、安心安全なまちづくりに向けて意識を高めてもらうことが目標です。

防災活動に携わっているみなさま



平野西地域

区社協からの提案をきっかけに、地域の高齢化がすすむなか住民が集える場としてふれあい喫茶をオープン。スタッフも参加者もお互いを思いやる、温かい関係ができています。

活動 ふれあい喫茶

スタッフは参加者の体調を把握するように心がけています。ふれあい喫茶には区社協や地域包括支援センターの方も来るため、困りごとがある方を支援につなげることができます。また、ふれあい喫茶と同時に定期開催する「介護なんでも相談会」では、保健師・薬剤師の方が、健康に関する測定や相談に応じてくれています。



平野西地域の人々

ふれあい喫茶を人とつなげる場に

ふれあい喫茶の開催情報を、平野西の広報誌「そやんな」に掲載していただくことがあります。「そやんな」は全戸配布しているため、ふれあい喫茶に来たことがない人に情報を届けるうえで役立っています。今後も、地域の方の孤立を解消していくため、地域の見守りの輪を広げられるようにしたいです。

ふれあい喫茶 運営のみなさま



平野南地域

にぎやか講座は、地域住民が主体となり、多様な企画をおこなう活動です。活動を通して、地域住民同士の交流が深まり、地域の活性化につながっています。

活動 にぎやか講座

この活動は地域の情報交換を通じて生まれました。地域住民の専門知識を生かした講演会や、子どもたちが楽しめる工作教室など、内容は毎回さまざまです。特に、子ども向けの講座では、自分で作ったロケットを飛ばすなど、子どもたちの創造性を育むような企画が好評です。



平野南地域の活動者のコメント

平野南の魅力みなさんと共有したい

参加者から「楽しい」との声が寄せられると、嬉しいものです。男性の担い手を増やすこと、孤立しがちな高齢者の方々にも来てもらうことが今後の課題です。にぎやか講座を通して地域の魅力を再発見し、ともに楽しい時間を過ごしましょう。ご参加をお待ちしています。





喜連地域



毎週1回2部制で、社会福祉法人永寿福祉会「喜連の杜」のスペースをお借りして、百歳体操を実施。最高齢は、96歳!40名以上の住民が参加し交流しています。

活動 百歳体操

百歳体操でめざすのは、体の健康維持だけではありません。地域の方々が集まり交流することでコミュニケーションが生まれ、住民同士が見守り合える場をつくることも大事な目的のひとつです。参加者同士で声かけをおこなうことで、健康や福祉的課題の早期発見につながっています。



喜連地域の人々

困ったときに相談し合える関係づくり

百歳体操がきっかけとなって、住民同士や施設の職員との関係を築けることで、何か困ったことがあった場合は、気軽に相談してもらえることが多いです。必要な場合には、各専門機関におつなぎするなど、福祉施設を利用しているからこそその支え合いをめざしています。



百歳体操運営のみなさま



喜連西地域

地域のリハビリ体操「リハネス」の開始を機に、一時期中断されていた百歳体操が再開しました。医療機関と連携し、各専門機関への相談件数も増えています。

活動 百歳体操

参加者は開始当初の約20人から、現在は約80人に増加しました。□コミなどで、喜連西地域以外からの参加者も増えています。いつも参加している人が連続して休んでいたら、地域福祉活動コーディネーターや地域包括支援センターの方が様子を見に行くなど、支え合いの輪が広がっています。



喜連西地域の人々

地域をつなぐ、笑顔と活力の場

参加者の増加に伴い、場所やボランティアの不足といった課題も抱えています。参加者の方々から感謝の声をいただくと、今後も続けていこうと思います。専門機関との橋渡しができる場でもあるので、気軽に来て、楽しくお喋りして、色々相談できる場でありたいです。



百歳体操運営のみなさま



喜連東地域



11年前から、ミニゲームや出店を楽しめるイベントを開催してきました。会場は、子どもたちや出店を担当する地域の大人たちの活気あふれる声で満ちています。

活動 子どもフェスタ

地域活動協議会の役員と協議し、地域の子どものためにできることを考え、子どもフェスタを開催するようになりました。役員とボランティア約20人が運営しています。小学生が対象で、参加者は毎年200人程度。コロナ禍でも、3部制で参加者を分散させて実施しました。



喜連東地域の人々

子どもたちに楽しんでもらうために

今後、若い世代の方々にも企画を考えていただき、時代に合わせた楽しいイベントを実施することをめざしています。コロナ禍を経て、ご近所同士で集まる機会が減ってしまったことに課題を感じています。少しずつ声かけを続けて、地域のさまざまな活動の担い手を集めていきたいです。

企画・運営を担う和田さん



喜連北地域



地域の運動会や防災訓練など、地域の住民がつながり・支え合える企画を年間を通して実施。若い世代が担い手となり地域の活動を続けられることが目標です。

活動 喜連北イベント倶楽部

イベント倶楽部は、PTAや子ども会、青少年指導員で結成され、専門機関などと連携し、喜連北地域のこどもフェスタやイルミネーションなどさまざまな活動を企画しています。一つの組織では難しいことも、協力し合うことで実現をめざします。連携は、活動を持続させる大きな力です。



喜連北地域の人々

地域全体で子どもたちを見守る

若い世代が自分ごととして楽しみながら、地域活動を担えるようにすることをめざしています。キーになるのは子どもたち。自分たちが子どもの頃に参加した地域のイベントを守ることが、将来の子どもたちに私たちが今できることです。活動を通して、喜連北を「住み続けたい地域」として盛り上げたいです。

喜連北イベント倶楽部役員みなさま





長吉東部地域

地域住民が協力し、子どもたちの安全な登下校を見守る活動をしています。
子どもたちの成長を見守り、地域全体で子どもたちを育てるまちをめざします。

活動 こども登下校見守り活動

活動を開始してから、子どもたちは大人に積極的に挨拶するようになり、見守る側も子どもたちの成長を身近に感じています。顔を覚えてもらえたり、感謝の声をもらえたりした時は、本当に嬉しいです。子どもも大人も安心できる環境になり、活気あふれるまちにしたいです。



長吉東部地域の人々

見守りから始まる地域コミュニティ

今後は登下校の見守りだけでなく、地域のイベントや遊びを通して世代間交流もしていきたいと考えています。この活動を新しい人たちに引き継げるよう、回覧板だけでなく口コミで活動を広め、継続して見守る人が増えるようなしくみを作っていきたいです。

活動参加者のみなさま



長吉六反東地域

週に1度、健康の館と2号棟集会所で炊き立てのごはんを配付しています。
配付開始時には地域の方々が大勢集まり、談笑を楽しみながら行列に並んでいます。

活動 ごはんですよ

地域内のつながりが希薄になってしまったことに課題を感じ、多くの人が家から出てくる機会をつくるため活動を始めました。週1回に約10kgのお米を炊き、200人以上の方に配付しています。この活動をきっかけに、地域の同士が顔なじみになり、お互いの健康を思いやれるような関係ができることを願っています。



長吉六反東地域の人々

人と人のつながりを大切に

感謝の言葉が励みになります。ごはんは、無料でお渡ししていますが、妥協せず、冷めてもおいしいものを用意するよう心がけています。今後も多くの方に来ていただけるように、活動内容を工夫していきたいです。

ごはんですよ 運営のみなさま



長吉長原東地域

住民の方に食事を提供するサービスを地域全体に広げるために2021年から委員会を発足。
今では食事サービスに限らず、地域の課題を共有し検討するなど、地域活動の基盤となっています。

活動 食事サービス委員会

食事を受け取りに来られたり、一緒に食事をしたりする中で、地域住民のちょっとした変化や困りごとを察知し、助け合えるきっかけが生まれています。食事サービスの継続はもちろんですが、こうした地域の課題を考えられる場を持つことで、より住みやすい地域をめざしたいです。



長吉長原東地域の人々

福祉施設とのコラボレーション

委員会の話し合いは、社会福祉法人優心会「このとり」のスペースをお借りして実施。地域に開かれた施設であるため、何か困ったことがあった際に気軽に尋ねられる拠り所となっています。福祉施設との連携がはかれることで住民だけでは解消できなかった課題にも取り組みます。

食事サービス委員会のみなさま



長吉六反地域

誰もが健康かつ笑顔で過ごせるようにしたいと考え、百歳体操の活動を続けています。
一人ひとりが孤独を感じることはない場であることを大切にしています。

活動 百歳体操

地域住民にとってこの百歳体操は、運動だけでなくコミュニケーションの場でもあります。お互いの体調を気にかけて合ったり、協力して準備や片づけをおこなうなど、参加者同士がコミュニケーションをとれる場になっています。体操を通じて知り合った人たちが別の活動に参加し、交流が広がることもあります。参加された方々が笑顔で生活を送っている姿を見るのが何よりの喜びです。



長吉六反地域の人々

参加者とともに、活動の輪を広げる

平野区に百歳体操が浸透する前から、活動を始めました。活動をおこないながら講習にも参加。百歳体操が地域でより広がるように指導員として活動しています。ありがたいことに、「自分も運営に関わりたい」と声をあげていただいたことも。活動の輪を広げ、地域の方の心と体の健康維持に貢献し続けたいです。

百歳体操
運営の
みなさま





長吉長原地域

地域のつながりを大切にしたいという声から始まったふれあい喫茶「いこい」。
今ではその名の通り、みんなにとってなくてはならない、憩いの場になりました。

活動 ふれあい喫茶「いこい」

町会長の声かけをきっかけに始まり、今年で10年目を迎えました。現在も女性部や現役世代の男性など約10人のメンバーで運営しています。月に一度の開催ですが、毎回80人近くの方々に参加いただいております。活気に溢れています。ここに来れば誰かがいる、という安心感が、楽しく交流できるポイントです。



長吉長原地域の人々

ご近所同士の絆が深まりました

普段来ている方が来なければ連絡を取るなど、自ずと支え合うようになりました。帰り際に「ありがとう」と言ってくると、やっていてよかったと思います。コロナ禍でも、何とか工夫しながら開催できたことで、地域のつながりを継続できました。今後は、新しい方にも来てもらえたらと思います。

ふれあい喫茶
運営のみなさま



長吉川辺地域

これまで活用しきれていなかった要援護者名簿に注目。援護が必要な方々のために何かしたいという思いから、コロナ禍をきっかけに活動を始めました。

活動 要援護者名簿を活用した見守り活動

民生委員と協力し、年1回活動を実施しています。訪問前は、とても緊張しますが、事前に勉強会を実施することや今までの活動の様子や情報を共有し、継続した取り組みができるように工夫しています。年1回の訪問ですが、顔を覚えてくれている方もおられて、嬉しいです。この活動がきっかけで、相談に来てもらえるなど、少しずつ地域に定着してきたと実感しています。



長吉川辺地域の人々

訪問を重ねることで、信頼を築く

私たちの訪問を、みんなに快く受け入れられているわけではありませんが、何か困った時に助けを求められる関係づくりが大切だと考えています。デリケートな面でもあるため、活動を広げることよりも、細く長く、そして楽しく継続することを今後の目標としていきたいです。

見守り活動を担うみなさま



長吉出戸地域

高齢者の健康増進に効果的なスポーツとして、グラウンド・ゴルフが注目されています。長吉出戸地域活動協議会が主催し、年2回の大会をおこなっています。

活動 グラウンド・ゴルフ大会

長吉出戸地域のグラウンド・ゴルフ大会の歴史は長く、連合町会が主催していた時代から数えると20年以上続いています。景品の準備や当日の天候に合わせた対応など、大変なこともありますが、「楽しかった」「また参加したい」といった声が多数寄せられ、やりがいも大きいです。



長吉出戸地域の人々

誰でも大歓迎! ともに楽しみましょう

今後は、年齢性別問わず楽しめるスポーツであることを知ってもらい、若い人たちにも参加してほしいです。ルールは簡単で、気軽に始められます。練習からでも、大会に飛び込み参加でも可能です。他地域からも参加できますので、いつでも遊びに来てください!

大会運営のみなさま



瓜破地域

地域の住民が協力し農作物を育てています。春にはジャガイモ、秋にはサツマイモを子どもたちと一緒に収穫。世代を超えて交流し、育み合える活動をめざしています。

活動 瓜破農園

「世代を超えた交流の場」をコンセプトに2021年から農園活動を開始。春秋の収穫祭には約200人の方々に参加いただきました。子どもたちを中心にその親世代の参加率も高まっています。今後は若い世代の方々にも参加いただき、一緒に輪を広げていきたいです。



瓜破地域の活動者のコメント

瓜破農園から地域を笑顔に

農園に参加してもらえた方から、「農園が地域の元気の源になってほしい」と言っていただいたことがあります。農園という場で、子どもも大人も高齢者も、住民同士が世代を超えて関わることにより、地域の方々の笑顔が増えると嬉しいのです。





瓜破西地域

要援護者名簿に記載されている方や70歳以上の単身の方などを定期的に訪問し、様子をうかがったり、支援が必要な場合はサービスにつなぐなどの声かけ活動をおこなっています。

活動 「声かけ隊」見守り活動

「つながりながら安心して住める地域をめざして」という言葉を掲げ、令和3年から活動をしています。活動発足時は、どう声かけをすればよいかなどを一から考え、研修会を実施。現在も活動は広がっています。



瓜破西地域の人々

地域活動を広げるきっかけに

訪問先で話したことがきっかけで、まちなかで声をかけてくれたり、地域のつながりが強化されていると感じます。今は、このネットワークをもとに防災の活動にもつなげようと呼びかけています。



「声かけ隊」運営のみなさま



瓜破東地域

防災訓練では、消防署や区役所による勉強会や炊き出し訓練が実施されます。要援護者の方々へ訪問し、安否確認をおこないます。

活動 防災訓練

瓜破東地域全体を対象として、毎回約300人程度が参加してくれています。昔は隣人同士の交流により、自然と声をかけ合っていました。最近ではプライバシーの観点から一層の注意が必要となっています。時代や地域の変化に対応しながら、災害時に助け合える関係づくりを模索中です。今後は、次世代とのつながりを強化していきたいです。



瓜破東地域の人々

隣人との絆、防災の力

地域住民同士の助け合いは、大きな災害時こそ重要です。そのためには日頃から隣人とコミュニケーションを取り、互いの状況を認識しておくことが大切です。今後もご近所付き合いを大切にし、地域全体で助け合う意識を育てていくことが目標です。



防災活動を担うみなさま



瓜破北地域

瓜破北地域は、全世帯が公営住宅にお住まいです。そのうち60%以上が高齢者となっています。日々の生活で生じる困りごとを解消するため、依頼を受けて活動する「たすけあい活動」をしています。

活動 瓜破北たすけあい活動の会

電球の交換や換気扇の掃除、粗大ごみの処分など依頼内容はさまざま。活動を続ける中での声かけや住民同士の口コミを通して、気軽に相談してもらえる窓口になってきました。利用者と地域が交流を持つことで、地域の見守りにつながります。



瓜破北地域の人々

「ありがとう」でつながる地域の輪

業者に頼んだりするほどではない、日常の些細な困りごと。どんなことでもまずは、相談してほしいと思います。活動でやりがいを感じるのは、依頼を終えた後に「ありがとう」と言ってもらえる瞬間。これからも住民のみなさんとのつながりを大切に、続けていきたいです。



瓜破北たすけあい活動の会のみなさま



加美地域

加美地域を、誰もが住みよいと思えるまちにするため、地域の魅力や課題などをひも解くワークショップをおこない、地域活動を住民により知ってもらい参画いただけるよう、地域福祉活動計画づくりに取り組みました。

活動 小地域福祉活動計画づくりに向けた話し合い

地域活動の担い手の方々が集まり、地域の魅力やめざす未来などについて意見を出し合い、付箋を模造紙に貼りながら話し合いをすすめました。これまで加美地域でおこなってきた防災、高齢者や子どもたちの支援など、多岐にわたる活動を見直す機会になりました。



加美地域の人々

加美の強みを活かして住みよいまちへ

加美地域の強みは団結力。小地域福祉活動計画づくりの過程でも、加美をよりよい地域にしたいという思いを共有しながらすすめてきました。加美の魅力や地域活動の特徴をまとめたリーフレットを配布し、より多くの住民のみなさんに活動に参画してもらおうことが目標です。



小地域福祉活動計画づくりに参加されているみなさま





加美南部地域

この地域に、毎年みんなで楽しめるイベントを作りたいという思いから、サマーフェスティバルが誕生しました。今では約1000人が参加する一大イベントになっています。

活動 サマーフェスティバル

サマーフェスティバルには、子どもから高齢者まで、年齢の垣根を越えたたくさんの方に参加いただいています。地域の方向士の交流が生まれるだけでなく、お祭りを通して、公共マナーや物の買い方などを子どもたちが学ぶ場としても定着しています。



加美南部地域の人々

地元への愛を育む夏祭り

地域の方から声をかけてもらったり、笑顔を見られたりすることが何よりのやりがいとなっています。加美南といえばこの夏祭り、と誇りに思ってもらえるようなイベントにしたいです。子どもたちが、将来また戻ってきたい、と思ってもらえる地域にしていくことが目標です。

サマーフェスティバル運営のみなさま



加美東地域



避難所の手引きの発行や、防災啓発用のタオルの配付、避難訓練の実施など、防災活動をおこなっています。地域の方々が日頃から防災を意識できるようにすることが目標です。

活動 加美東日赤奉仕団(加美東連合)

大規模災害に備え日赤分団長(町会長)と加美東防災リーダーが中心となって避難訓練、避難所開設訓練、防災訓練をおこなっています。災害時の受付作業が簡単におこなえるように分団員(町会加入者)の全員に団員証を配付して災害に備えています。また、災害時に困難にみまわれた方からのSOS対応のために緑のタオルを配付して日常から備えています。

団員証 2024年
加美東日赤奉仕団 分団
(加美東連合第 町会 班)

裏面に世帯の人数等必要事項をご記入いただきご個人で保管ください
災害時避難所の受付にご提示ください

世帯人数 人	
名前	年齢 血液型
携帯電話番号	性別
同居世帯の方のお名前	

災害時に受付でご提示ください。個人で保管ください。



加美東地域の活動者のコメント

災害時の最大の備えは日頃のふれあいと信じて、次のような多様な活動を通して笑顔で安心・安全な加美東を目指しています。

- ふれあい喫茶
- 敬老会
- ハイキング
- 食事サービス
- ボッチャ
- 歳末夜警
- 子育てサロン
- スポーツ大会
- 防災訓練
- 見守り活動
- 加美東まつり
- 人権講演会



加美北地域

加美北まつりは、地域のつながりを再生するための大きな一歩です。若い世代も巻き込みながら、子どもから大人まで楽しめるまちづくりがすすんでいます。

活動 加美北まつり

地域の人々が交流し活気を取り戻すために、数年ぶりに加美北まつりを再開。700人以上の参加者が集まり、世代を超えたつながりが生まれました。まつりをきっかけに顔なじみが増え、声をかけてもらえることもあり、とても嬉しいです。これまで加美北を盛り上げてきた先輩方と若い世代とが協力しながら、加美北の未来をつくっていったらと思います。



加美北地域の人々

みんなでつなげる次世代へのバトン

近年、近隣同士のつながりが薄れがちなかで、子どもたちを地域全体で見守っていくためには、地域の行事が重要であると考えています。他地域のやり方や良いところを取り入れ、PTAを中心とした若い世代に参加してもらうことが、次世代へつなぐ基盤になっていくはずだと。

加美北まつり
運営のみなさま



Column

つながり、広がる、地域での支え合い活動

大阪市では、昭和47年以降、高齢者食事サービス、ふれあい喫茶、子育てサロンなど住民が主体となって地域福祉活動(小地域福祉活動)に取り組んできました。平野区においても、平成5年ごろから高齢者食事サービス、平成11年ごろからふれあい喫茶の活動が地域で開始されています。

昭和49年の平野区社協設立から50年。少子高齢化が進行し、家族形態や地域基盤にも大きな変化があり、私たちの暮らしは大きく変わり、地域の福祉課題は複雑、多様化しています。また、コロナ禍では、「人と人とのつながりづくり」の再構築が求められました。こうしたなかで、活動が途切れてしまわないように知恵と工夫を重ねて取り組みを続けてこられた地域も多くありました。

小地域福祉活動は、誰もが自分らしく暮らし続けられる地域をめざして、住民のみなさんが、それぞれの地域の困り事や心配事などの解決に向けた方法や活動内容を考えて、地域のみなさんで取り組んでいく地域活動です。平野区でも、子どもたちの登下校の見守り活動や高齢者の健康づくり、世代間交流、災害への備えなど地域の実情、特性に応じて小地域福祉活動は広がりを見せています。平野区社協は今後も、地域のみなさんの支え合い、助け合いの地域づくりを支援してまいります。

役員紹介

Executive Profiles

理事・監事

理事(会長)	林 幸男	加美社会福祉協議会会長
理事(副会長)	豊田 幸一	平野区地域振興会会長
	松野 長次	平野区民生委員児童委員協議会会長
	高木 文子	平野区地域振興会女性部長
理事	角野 隆康	平野南社会福祉協議会会長
	植西 正子	喜連北社会福祉協議会会長
	井上 秀忠	長吉長原東社会福祉協議会会長
	増井 久雄	瓜破西社会福祉協議会会長
	十九川 廣	平野区民生委員児童委員協議会副会長
	森本 克子	NPO法人オリーブひらの理事長
	中谷 信夫	ボランティアグループ ウィルチェアードダンス育成会「まゆみ劇団」
	後藤 静男	(社団)平野産業会理事長
	杉田 善久	平野区社会福祉施設連絡会副会長
	田中 米一郎	平野区老人クラブ連合会会長
	服部 政明	平野地区保護司会会長
監事	万福 潤一	平野区社会福祉施設連絡会副会長
	村上 洋子	近畿税理士会・税理士



歴代会長

奥村 孫太郎 (昭和49年8月～) 東住吉区から分区	新田 一夫 (昭和56年7月～)	藤本 道造 (昭和63年7月～)	森田 昭信 (平成4年6月～)
垣内 正春 (平成22年6月～)	日下 俊弘 (平成26年4月～)	田中 智偉子 (平成27年1月～)	林 幸男 (令和3年6月～)

評議員

戸田 昌克	新平野西社会福祉協議会会長	南 喜代美	瓜破北地区民生委員児童委員協議会委員長
今岡 敏夫	平野西社会福祉協議会会長	川野 光男	加美地区民生委員児童委員協議会委員長
鳶谷 勉	喜連西社会福祉協議会会長	砂川 裕之	平野区代表主任児童委員
井田 玉雄	喜連東社会福祉協議会副会長	鶴澤 知典	平野区介護保険事業者連絡会副会長
上野 健一	長吉六反東社会福祉協議会会長	浦尾 光子	精神保健ボランティアグループユニコーン代表
大谷 貞子	長吉東部社会福祉協議会会長	上田 好子	平野区更生保護女性会会長
南野 秀信	瓜破社会福祉協議会会長	磯田 恭子	平野区母と子の共助会会長
山本 聖司	瓜破東社会福祉協議会会長	吉田 英也	平野区子ども会育成連合協議会会長
富樫 龍夫	加美南部社会福祉協議会会長	中山 美代子	平野区身体障害者団体協議会会長
佐藤 貢	加美東社会福祉協議会会長	西川 潤一	平野区青少年指導員連絡協議会会長
岡山 美恵子	新平野西地区民生委員児童委員協議会委員長	林 卓也	大阪市平野区人権協合理事長
坂本 伸夫	喜連西地区民生委員児童委員協議会委員長	石田 易司	桃山学院大学名誉教授
岡崎 幸子	長吉西部地区民生委員児童委員協議会委員長		

地区社会福祉協議会会長

平野	山中 政昭	長吉東部	大谷 貞子	瓜破西	増井 久雄
平野西	今岡 敏夫	長吉長原東	井上 秀忠	瓜破東	山本 聖司
新平野西	戸田 昌克	長吉六反東	上野 健一	瓜破北	西尾 富久二
平野南	角野 隆康	長吉六反	森下 俊樹	加美	林 幸男
喜連	山野 浩司	長吉長原	日置 義明	加美南部	富樫 龍夫
喜連西	鳶谷 勉	長吉川辺	西川 嘉彦	加美北	森安 徳政
喜連東	大塚 晃宏	長吉出戸	水田 勇	加美東	佐藤 貢
喜連北	植西 正子	瓜破	南野 秀信		

令和6年12月現在

編集後記

Editor's note



この50年間、地域のみなさまと歩んでこられたことに心より感謝申し上げます。

みなさまのご協力を得て、50周年記念誌を発行することができました。

本記念誌発行にあたり、各地区社会福祉協議会はじめ地域の各団体、関係機関のみなさまに

ご協力いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

記念誌としては不十分なものでありますが、ご寛容のほどお願い申し上げます。記念誌がみな

さまの本会に対する一層のご理解につながり、また、50年をふりかえり、新たな歩み続けるため

の礎になれば幸いです。今後とも地域のみなさまとともに地域福祉の推進に努めてまいります。



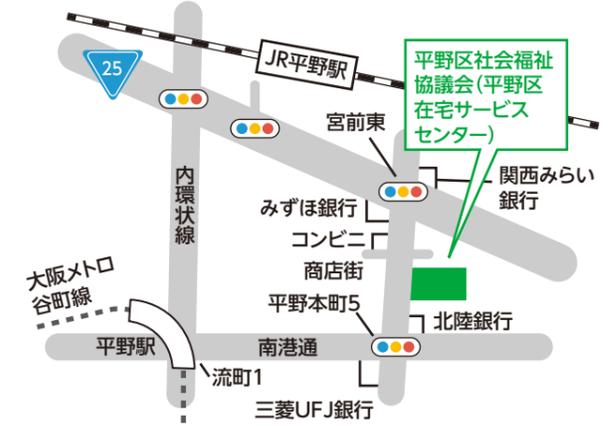
連絡先・地図



平野区社会福祉協議会

〒547-0043 平野区平野東2-1-30
平野区在宅サービスセンター(にここセンター)

TEL 06-6795-2525
FAX 06-6795-2929
開館日 月～金曜日 午前9時～午後7時
土曜日 午前9時～午後5時30分
※祝日・年末年始を除く



- 地域支援
- 地域福祉活動コーディネーター事業
- 生活福祉資金貸付相談窓口
- 生活支援体制整備事業
- 介護予防教室事業(にここ教室)
TEL 06-6795-2525
- 平野区ボランティア・市民活動センター TEL 06-6795-2200
- 平野区地域包括支援センター TEL 06-6795-1666
- 平野区見守り相談室 TEL 06-6795-2577
- 平野区あんしんさぼーと TEL 06-6795-2727

くらしサポートセンター平野 (平野区役所1階19番窓口)

〒547-8580 大阪市平野区背戸口3-8-19

TEL 06-6700-9250
FAX 06-6700-9251
相談日 月～金曜日 午前9時～午後5時30分
※祝日・年末年始を除く



ひらりん (平野区老人福祉センター)

〒547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-2-26

TEL 06-6793-0880
FAX 06-6793-0868
開館日 月～土曜日 午前9時～午後5時
※祝日・年末年始を除く

